

市民と自治体との連携で 米軍再編をくい止めよう！

～空母艦載機部隊の岩国への移駐はヒロシマへの挑戦～

2006年3月12日、岩国において、「厚木からの空母艦載機部隊の岩国基地への移駐案の賛否を問う住民投票」が行われ、58.68%の得票率を得、全投票者の87%、全投票有資格者の51.3%の「反対」票が投じられました。4月23日に行われた新岩国市の市長選においても、安倍官房長官（当時）をはじめ現職の大臣らによる露骨なまでの振興策が示される中で、圧倒的な得票率で「白紙撤回」を公約に掲げる井原勝介前岩国市長が当選しました。2度に渡って明らかにされた岩国市民の民意は決して軽んじられるものではありません。

岩国市民は50年以上に渡って、一度も爆音訴訟を提訴することなく、基地を受け入れてきました。けれども、今回の住民投票を経て、市民が「自分たちが黙って受け入れてきてしまった」ことに気づき、「今、声を上げなければ、次から次へと押しつけられてしまう」と、一人一人が声を上げ始めたのです。

しかし、日米両政府は、市長選から2週間も経たない5月1日に日米安全保障協議委員会（2+2）において、米軍再編「最終報告」に合意し、5月30日には閣議決定しました。これは、民意をないがしろにしたものであると、岩国の市民団体をはじめ、周辺の市町村の自治体や住民たちから強い抗議の声があがりました。2005年10月29日に「中間報告」が出された際に、日本政府は「地元への理解を求める」と述べたにも関わらず、地元住民に何の説明もないままに、強行されたものであり、断じて許すことができません。

現在日本政府は「地域振興策」という「アメとムチ」を振りかざし、地元住民を分断しようとしています。しかし「地元の負担軽減」という言葉と裏腹に地元への負担が増大するのは避けられない事実です。



沖合埋立完成予想図

政府は「防衛外交は国の専管事項」という考え方で押し通そうとしていますが、私たちの街の未来を決めるのは私たち住民であり、自治体です。私たちは、名護市の経験から、住民投票で示された民意と今日までの基地を作らせない地元住民の力が、日米合意も閣議決定も破綻させてきたことを知っています。

岩国市民の民意を尊重し、安心して安全に暮らせる街を作り、私たちがこれ以上、人の命を奪う戦争に加担しないためにも、全国のみなさんの力で、岩国市民と自治体の連携を支え、今回の米軍再編を白紙撤回させましょう！

発行：入れるな核艦船、飛ばすな核攻撃機
ピースリンク広島・呉・岩国

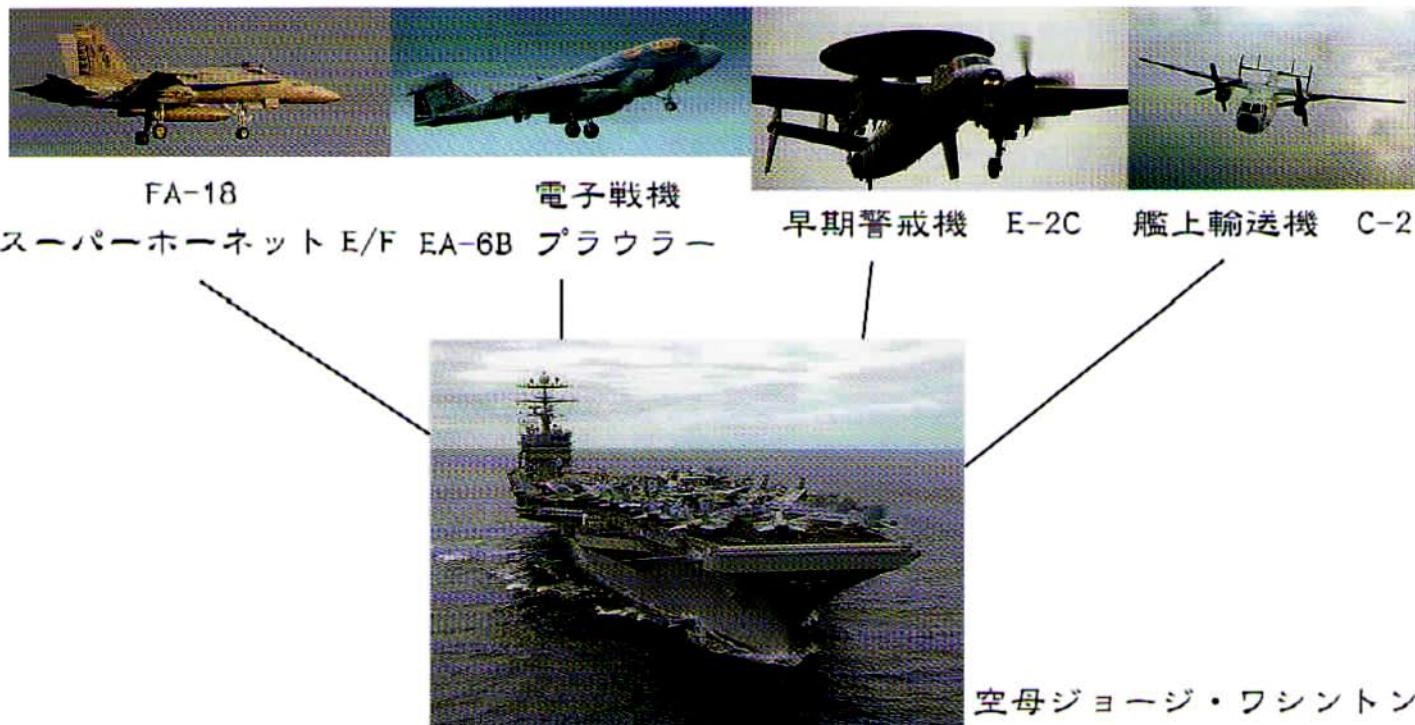
〒730-0051 広島市中区大手町4-3-10
広島YWCA 気付

(黄色の枠の中が現岩国基地、ピンク色の部分が埋立地)

最終報告に盛り込まれた岩国に移駐される予定機

☆厚木から岩国：空母艦載機部隊

現在横須賀を母港としている空母キティーホークが2008年には原子力空母ジョージ・ワシントンに代えられようとしています・・・この空母艦載機59機が岩国に移駐。



☆普天間から岩国・・・空中給油機 KC-130



2005年10月の「中間報告」では、鹿児島県の鹿屋に移駐されると記されていましたが、米軍の希望もあり、「最終報告」においては、岩国に移駐されると記されています。しかも、司令部、整備支援施設および家族支援施設も岩国を拠点とし、訓練および運用は、海上自衛隊の鹿屋基地とグアムで定期的にローテーションで展開されるとしています。

今回の移駐案を許してしまうと、現在いる57機と併せて、米軍機だけでも128機となり、岩国基地が極東最大の機数を抱えた基地となります。

☆空母艦載機の離着陸訓練の恒常施設

最終報告には、空母艦載機離発着訓練用の「恒常的な施設を2009年7月またはその後の出来るだけ早い時期に選定することを目的とする」と記されており、岩国に空母艦載機部隊が移駐されるということは、地理的に近い広島湾の島（大黒神島？）を含む西日本のどこかにNLP（夜間離着陸訓練）のための恒常施設が建設されることが危惧されています。

☆原子力空母が瀬戸内海を航行？

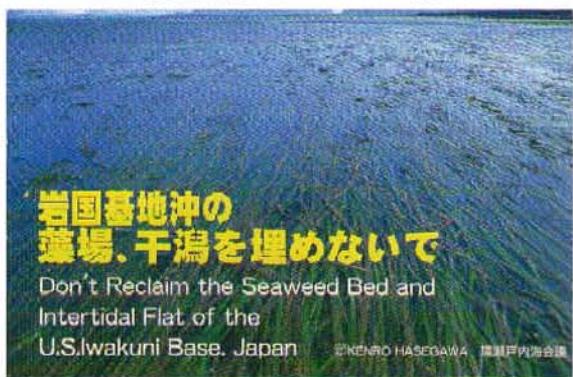
また、2008年には現在横須賀を母港としている空母が原子力空母に代えられようとしています。原子力空母とは電気出力が20万kwの原子炉を2基積んでおり、この移駐案を許すと、被爆地ヒロシマの海を「動く原発」である原子力空母が航行することになりかねません。このことに対し、被爆地ヒロシマから強い反対の声があげられています。

米軍再編による岩国への移駐の背後にあるもの

☆沖合移設埋立事業

1968年、九州大学に板付基地所属の米軍戦闘機ファンタムが墜落した事件を受け、岩国でも、騒音や墜落の危険を回避することを求める声があがりました。そして、1997年より、現在ある滑走路を1km沖合に移設するための213ヘクタール埋め立ての沖合移設事業が始まりました。2008年度中に完成予定ですが、すでに2400億円の思いやり予算として私たちの税金が投入されています。埋立用土砂の採掘費用の高騰や談合につぐ談合のため2008年度中の完成は難しく、さらに予算がふくらむことも考えられます。

埋立前のアマモ場



沖合移設工事が始まる前の海には美しい藻場、干潟が広がっていました。広島防衛施設局は、沖合移設工事を始める際に藻場干潟の代償措置の約束をしていますが、実際にはほとんど進んでいないのが現状です。

この埋立地の下に藻場があった

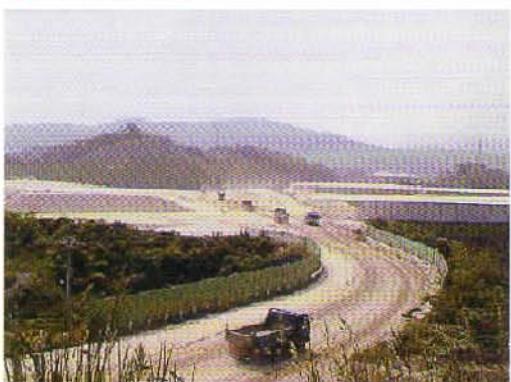


美しい藻場、干潟をつぶし、滑走路のための埋立が行われています。すでに南側は2005年9月から運用が始まっています。「滑走路移設事業」のはずが、水深13mの軍港が作られており、米軍機関紙では、揚陸艦エセックスの着岸も宣言されています。

☆愛宕山開発事業



現在、沖合移設事業とワンセットで行われているのが、「愛宕山開発事業」です。213ヘクタール埋立てるために、愛宕山を切り崩し、その土砂を海まで運び、埋立を行っています。切り崩した山には新しい街を作る計画でしたが、当初の予定より売却予定が大幅に減ったため、事業主である山口県と岩国市に300億近い莫大な借金が残ることが予測されます。2006年4月の新市長選の際に、町村元外相が岩国入りし、「国がその借金を肩代わりして、愛宕山に米軍住宅を建ててあげます！」とぶちあげました。



↑ 愛宕山 - 今日も土砂が切り出され、海へと運ばれています。土砂採掘現場では、岩盤があるため、予定になかったダイナマイトによる発破作業が行われており、地域の住宅や住民に大きな被害をもたらしています。

← すでに開発の終わった西工区 - すでに芝が貼られ、今後使う予定はなく、ここを国が買い取り、米軍住宅が建てられる恐れがあります。

平和な未来を私たちちは決してあきらめない

5月1日、日米両政府は私たち市民の意思を全く無視した無謀な移転計画案を最終合意しました。これを受け市民の中から「国が決めることだから反対してもやはり駄目なのか」と、なかばあきらめてしまう声も少なからず聞こえます。けれどもそんな簡単に私たち岩国の未来を、安心や安全、命や平和をあきらめてしまってよいのでしょうか。私は決してあきらめたくはありませんし、私たちが最後まであきらめなければ、政府もこの無謀な移転計画を絶対になし得ないと信じています。たとえ日米両政府が合意したとしても私たち市民は決して合意していないからです。

私たちの小さな力こそが大切

そんな思いをつなげてこうと5月20日「住民投票の成果を活かす岩国市民の会」を発足させました。記念講演で小出実さんはベトナムの運動を振り返り、「1970年、岩国基地の中で反戦米兵の運動が起こり、アメリカがベトナムから撤退を余儀なくされる一因となったこと。今度は基地の外で市民が立ち上がり、住民投票において圧倒的多数の反対意見で基地の強化を拒んだこと、そのどちらもがもともと無名の一市民の運動であるが、この市民の小さな力こそ基地の強化を阻む力があること」など力強く語ってください、本当に力づけられました。

基地で街は潤わない

軍民共用空港、米軍施設としての愛宕山開発地の買い上げ等々。今後政府は何としてもこの無謀な計画案を遂行するために、「アメとムチ」で様々な振興策を提示してくるでしょう。けれどもこれまで基地で街は潤ってきたでしょうか。決して基地で街は豊かにはなりませんし、これ以上基地が強化拡張されれば、騒音や犯罪が増え、ますます安心して暮らすことの出来ない街になってしまいます。この無謀な移転計画が白紙撤回されるまで、粘り強く声をあげ続けていきたいと思います。多くの方々のご賛同をどうかよろしくお願ひ致します。

「住民投票の成果を活かす岩国市民の会」大川 清

岩国基地の歴史と主な経過

1938年	旧日本海軍が土地を買収して、飛行場建設に着手。当時は、東西に滑走路が建設される。
1939年	呉鎮守府所属練習隊が配置。
1940年7月	岩国海軍航空隊が発足(123ha)。
1945年8月14日	岩国大空襲。しかし、岩国基地はほぼ無傷で残された。
9月	終戦後、米海兵隊が進駐し、土地を接收。この時すでに、451haに拡大されていた。
1950年	滑走路を現在の南北に造り替える。このときに錦川の砂利を米軍が大量に接收した為、300年間流れることのなかった錦帯橋の橋脚が流れる事件が起こる。
1952年4月	日米安保条約に基づく在日米軍基地となり、米空軍の基地となる。また民間空港として開港される。この年から1956年まで基地施設の拡充が行われ現在の規模となる。
1949年12月	米海軍の基地となる。
1957年3月	海上自衛隊教育航空群が共同使用を開始。
1962年7月	米海兵隊の航空基地となる。
1965年9月	F-4B ファントム、A-4C スカイホーク各35機を配備。
1968年6月	九州大学構内に板付基地所属の米軍戦闘機ファントムが墜落した事件を機に同型機が配備されている岩国基地においても、墜落の危険や騒音の軽減を求める世論が高まる。
1971年10月	岩国市議会は14日、「基地建設に関する件」を議決。
1987年7月	F-4 ファントムに代わって、FA-18 ホーネット 12機が配備される。
1989年6月	A-4M スカイホークに代わって、AV-8B ハリアー II 14機が配備される。
1997年6月	「滑走路」沖合移設事業着工
2002年2~3月	これまで固定翼機しか認められていない岩国基地に米軍大型輸送ヘリ CH-53D 8機が配備される。
2004年8月12日	沖縄国際大学に岩国基地所属と同型の米軍大型輸送ヘリ CH-53D が墜落、炎上。
2005年10月29日	米軍再編中間報告において厚木からの空母艦載機部隊の岩国への移駐が盛り込まれる。
2006年3月12日	「厚木からの空母艦載機部隊の岩国への移駐の賛否を問う住民投票」実施。58.68%の投票率で成立。開票の結果、87%（全投票有資格者の51.3%）の反対票が投じられる。
2006年4月23日	新岩国市長選において、「白紙撤回」を公約に掲げる井原勝介さんが当選。

詳細は、「ピースリンク叢書13号「米軍再編と広島の基地群」」(カンバ700円)を!